

「五つのパンと二匹の魚」 マルコ6章30-44節 平吹光太 24.11.17

前々回、イエス様は弟子達だけを二人一組にし、汚れた霊を制する権威を持たせ、村々へ遣わした記事。本日はその弟子達が宣教の旅からイエス様の元に帰って来たところから始まり、有名な5千人の給食の箇所。ここから主の御思いを共に教えられてまいりましょう。

I. 使徒たちの報告 (30)

使徒たちはイエス様の元に戻り村々で自分達がした事、教えた事を報告した。弟子達は「自分達にもイエス様がされたようにできた」と興奮気味に報告したはず。

なぜ弟子達は汚れた霊を追い出し、病人を癒せたか？彼らに元々能力があった？訓練されてできたからイエス様に遣わされた？そうではなくイエス様から権威を与えられたからできた。弟子達は初めての事で不安や恐れを持っていたはず。しかし結果、彼らは素晴らしい体験をし戻ってきた。はじめは謙虚に私なんかかと思いつつも、イエス様が権威を与え遣わしてくださるのだから行きますという姿勢。けれども働きをしている中で人から感謝され褒められるうちに自分達が何か偉くなったようになる。

II. 寂しいところへ (31-33)

イエス様は弟子達の報告を聞いて、「さあ、あなたがただけで、寂しいところへ行って、しばらく休みなさい。」(31)と弟子達に言われた。イエス様はご自身の元を訪れる人が多く、食事をとる時間さえなかった事と特に弟子達の心の状態を見られて言われた。

イエス様は一人でよく寂しいところに行かれた。それは父なる神に祈り交わる時を持ち、みこころ、成すべき事を確認するため。イエス様は弟子達にも同じように神と交わり、自分の力ではなく謙遜に神により頼み、神のみこころを知り行えるようになるため寂しいところで休みなさいと言われた。しかしイエス様と弟子達が舟に乗り、静まれる場所に向かったが群衆が先回りし集まっていた。

III. 五つのパンと二匹の魚 (34-40)

「イエスは舟から上がって、大勢の群衆をご覧になった。彼らが羊飼いのいない羊の群れのようなので、イエスは彼らを深くあわれみ、多くのことを教え始められた。」(34)

なぜ群衆がイエス様の元に集まったか？それは神の国の話や病の癒しや汚れた霊の追い出しを求めていたため。当時はローマによってイスラエルも支配され、過度な税金を要求され、ローマの良ように法律が成され、人々は苦しんでいた。そのためこの苦しみから救い出してくれる神の約束の救い主かもしれないと期待しイエス様の元に大勢の人が集まった。その群衆を見たイエス様は羊飼いのいない羊の群れのようなだと深くあわれみ、多くのことを話された。

そのうちに時間が遅くなり弟子達はイエス様に「ここは人里離れたところで、もう遅い時刻になりました。皆を解散させてください。そうすれば、周りの里や村に行き、自分たちで食べる物を買うことができますでしょう。」(35-36)と言った。弟子達は人々の空腹を心配し心配りができるようにも思うが自分達の空腹を心配していた。弟子達は「皆を解散させてください」とイエス様に助言した。弟子達は仕切り始めイエス様に助言する程に偉くなっている。

しかし弟子達の助言とは反対に「あなたがたが、あの人たちに食べる物をあげなさい。」(37)とイエス様は言われた。弟子達は「私たちが出かけて行って、二百デナリのパンを買い、彼らに食べさせるのですか。」と言った。冷静に回答しているようにも見えるがどう考えてもこの状況で全員に食べさせるのは無理です、状況を分かっていますかという含みがある。男性だけで5千人。さらに女性や子どもも含めれば2万人位居たはず。さらに時間も遅く、人里離れた場所。

それに対してイエス様は「パンはいくつありますか。行って見て来なさい。」(38)と弟子達に言われた。この5千人の給食の話は4つの福音書全てに記され全ての福音書に書かれている記事としては珍しい。そして他の福音書には書かれていなく、マルコだけにしかない言葉がある。それが「パンはいくつありますか。行って見て来なさい。」。この言葉の意図は何か？

弟子達は言われた通り人々に食べる物を持っているか聞いて来た。すると弟子の一人アンデレが五つのパンと二匹の魚を持っている少年がいますとイエス様に言った(ヨハネ6:8-9)。イエス様は「あなたがたで食べるものをあげなさい」と弟子達に言われました。人は責任を持つと、現実を見やすくなる。特にお金のことになると計算をし、2万人＝無理と考える。しかし、イエス様は「パンはいくつありますか。行って見て来なさい。」と弟子達に言う。このことの前に弟子達はイエス様に権威を与えられ神の力により、

汚れた霊の追い出しや癒しの奇跡をしてきたばかり。その直後の話にも関わらず、あなた方でしなさいと言われ弟子達は困っている。なぜか？私たちはイエス様が救い主である事は信じられる。しかし現実の事になると瞬時に考え、弟子達のようにすぐに現実を見てしまう。けれどもイエス様はあえて弟子達にどの位あるのか見て来なさいと言われた。それで弟子達は確認しイエス様に五つのパンと二匹の魚があったと答えた。この時、弟子達は五つのパンと二匹の魚があった事を肯定的、それとも否定的に言っているか？マタイとルカには「五つのパンと二匹の魚しか」ありませんと記され、ヨハネには「こんなに大勢の人々では、それが何になるでしょう。」と否定的に記されている。同じ状況や困難の中でも私たちがどう捉えるかで変わるといふこと。困難の現実を見ても、神を見あげ、神に信頼して歩む人と神を見ても現実には甘くない無理だと考え、神を見上げず信頼しない人がいる。イエス様から弟子達があなた方で人々に食べ物を受けなさいと言われた時、弟子達は状況を見て考え無理という答えをした。弟子達はこの前にイエス様に遣わされ、汚れた霊の人達や癒しを必要としている人達が目の前にいる状況の中で、自分には到底無理だとはならず、イエス様が権威を授けてくださったと神を見上げ、神の御業、奇跡を目の当たりにした。けれどもこの所で、弟子達はパンは五つと魚は二匹しかありませんと否定的になっている。私たちは現実的な事であればある程、どうにもならないと思う。イエス様が弟子達に求めていたものは何か？それはイエス様への信頼、信仰。イエス様は五つのパンと二匹の魚が無くても、全員に食べ物を与える事ができるお方。

ではなぜわざわざ食べ物があるか確かめさせたのか？それは現実を見て無理だと思っている弟子達に気づいて欲しかったため。また私たちの持っているものを用いて、御業を成さることを示すため。どんな事でも万物の創造者である神に行う力や乗り越える力があることを経験してきたにも関わらず、「現実には厳しいんですよ」と神よりも自分の方が分かったように考えてしまう。けれどもイエス様は私たちに全てのことにおいて信頼し歩むように願われている。

また、なぜイエス様はご自身で何でもできるのにあえて神にしかできないことを弟子達にさせているのか？それは私たちに祝福を与え、そしてその私たちを用いて人々に神の祝福を広めるため。

IV. 全ての満たし主 (41-44)

少年の五つのパンと二匹の魚はどうなったか？主イエス様の手に渡った時に全員が十分なパンと魚を食べ満腹した。私たちはここからはっきりと教えられます。汚れた霊の追い出し、病の癒し、人の救いは神にしかできません。または全てのことを成すことができるお方と言いつつも、実際に私たちの現実の生活（家族友人職場の事、経済、健康、将来）の事を考えると無理だと思う。私たちの信じている神は永遠の救いは与えて、天国に来るまでの地上の生活は自分達で頑張ると言われるお方か？イエス様は「羊飼いのいない羊の群れのような彼らを深くあわれまれた」とあるように食べることや仕事を後回しにする程に心の乾きを覚えて満たされたいと集まって来た人々に心も体も満たされた。つまり、神は全ての領域において心を配っておられるお方。

「空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。それでも、あなたがたの天の父は養ってくださいます。」(マタイ 6:26)。私たちのことを愛してくださっている神がほっておくことはなされない。改めて私たちはイエス様が全ての領域、霊的にも肉体的にも物質的にも必要を満たされるお方である事を覚えたい。そして主が私たちの必要や御業を成される時、私たちは主に信頼し信仰を持って今与えられているものをイエス様にお渡しする事が求められる。イエス様は五つのパンと二匹の魚が無くても人々の必要を満たすことができた。しかし一人の少年が持っている食べもの（家族全員の何日分かの食料だったかもしれない）を差し出した時に用いられた。私たちはこんなわずかなものかと思われるが、主から与えられている能力や賜物、物やお金において私たちの主の御手に差し出す時、神は何倍にも用い祝福して下さる。弟子達や群衆、特にパンと魚を差し出した少年は驚き、神を崇めたことでしょう。

私たちは現実を見て私たちはもう無理だと思うような事があるかもしれないが、そのような時こそ神に信頼しましょう。神は私たちの思いを遥かに超えて祝福しようとするお方であることを覚えたい。私たちは神が私たちに願われ、してもらいたいと思われているみこころに歩む時、必ず主が責任をとってくださいます。「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」(33)。主のみこころを求め、行うために、今あなたが主に差し出すものは何でしょうか？